

○ 本校の概要

児童数282、学級数11、教員数22名、今年度開校118周年を迎える地域に密着した学校である。通年、地元の祭りや伝統的な行事への参加をはじめ、干潟観察や蚕の授業など、地域の方々と学校が一体となって子どもたちの健全育成に取り組んでいる。また、羽田空港に最も近い学校であり、総合的な学習の時間を用いたバリアフリーの学習やキャリア教育、空港イベントへの参加等、空港と日常的に連携を図り、学校教育に生かしている。また、東京都人権尊重教育推進校としての歴史は長く、近隣の高齢者団体や幼・保育園、障害者施設や食肉市場の方々との交流を通して、都の人権課題について積極的に学習に取り組んでいる。このように、本校は「地域力と国際都市おおた」の実践に意欲的に取り組み、「人権尊重教育」に力を注いでいる学校である。
また、学力向上においては、放課後補習教室や土曜補習教室（羽田っ子塾）などを利用し、日頃の学習の成果や学習効果測定などの結果を基に、全教員が力を合わせて指導に当たっている。漢字検定では全ての児童が合格するまで指導し、学力効果測定の結果にもその成果が見られるようになってきている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価 人数	コメント
プラン 1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	「自分の考えや感じたことを友達に言葉で伝えることができる」と回答した子どもの割合	4: 80%以上	今年度は、校内研究において「言語活動の充実」に力を入れ、全校で共通の話を提示し、自分の考えや感じたことを友達に伝える活動を意図的に行ったが、学力として定着させるには十分ではなかった。来年度も交流活動の場を多く設け、コミュニケーション能力の向上を目指していく。	A 7	「言葉で伝えることができる」と回答した児童が78%なのは、自分の考えや感じたことを言える環境づくりができて、発表の場が多くなってからだと思う。その反面、自分の気持ちを言葉で表現することが苦手なお子さんもいて、トラブルの原因はほとんどがコミュニケーション不足からではないか。学力の定着は時間が必要だと思うので、他の人に伝える楽しさを経験できるように、継続してご指導をお願いしたい。羽田小は少人数で異学年とも関わりがもてて良い環境だと思う。しかし切実琢磨する場面が多く設け、コミュニケーション能力の向上を目指していく。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	2		3: 70%以上		B 0	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4		2: 60%以上		C 0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4		1: 60%未満		D 0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3		同等未満			
プラン 2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	東京ベーシックドリルで1学期から3学期の平均正答率の上昇のポイント	4: 5p以上	東京ベーシックドリルを学期に1回実施し、学習内容の定着を図るために授業中や宿題等で繰り返し取り組ませてきた。今後とも定着できるように継続して取り組んでいく。	A 5	ほとんどの児童が宿題等に取り組む姿が見られる。自主勉強が定着できるように、繰り返し取り組んで「できる・できる」の達成感を味わってほしい。更には子どものできたを味方めて伸ばせることよい。また、ベーシックドリルを家庭でも活用することで、つまづきを早く見付けて家庭でも見ることにつながるのではないかな。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	4		3: 3p以上		B 2	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4		2: 同等以上		C 0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3		1: 同等未満		D 0	
		週に一度以上は、問題解決的な学習(発見学習、先行学習)を取り入れた授業を行い、児童の能力の向上を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3					
プラン 3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	「自分によいところがある」と思うと回答した子どもの割合	4: 90%以上	道徳教育特別委員会を設置し、計画的に研修を行ったり、授業を見合ったりして授業力向上に努めている。道徳授業地区公開講座では、各クラスの道徳の授業を事前に録画し、保護者会で指導案と共に公開した。次年度も、児童が主体的に取り組める活動の充実を図っていく。	A 7	羽田小の子どもたちは、素直で子どもらしい子が多く豊かな心をもっている子が多いと感じている。人権教育の成果である。また、道徳教育に力を入れていることも感謝している。校外でも、自己肯定感を高めることを意識して、声かけができるというのではないかな。以前の授業公開で「よいところ」を発表する道徳の授業を見学したことがあり、友達だけではなく自分を見直す良い機会になっていたと思う。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		3: 85%以上		B 0	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3		2: 80%以上		C 0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		1: 80%未満		D 0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4					
プラン 4 体力進の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に對し、正しい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	週に3回以上外遊びをした児童の割合	4: 90%以上	今年度は、自発的に運動する習慣を身に付けさせるために朝遊びの時間を設け、自由遊びとした。校庭工事や感染症対策の関係で十分に定着していなかったので、次年度は、参加者の増加を目指していく。	A 6	中体小に元気に走り回ると子どもたちの姿が見られた。短い時間でも体を動かすことができ、運動不足解消や体力向上の助けになっている。このような取り組みが習慣化するとよい。また、校外学習、マラソン大会に向けた取り組み、音楽会など、行事に向かって取り組むことで、自分たちで考え行動する姿勢が身に付いてきて、時代に対応できる力をもっているように感じる。運動している様子を見させてもらうと、体力だけではなく、運動能力が低下している子がいるのも事実である。アンケートの「早寝早起き朝ごはんの習慣を実施」が28%だったので、少なからず生活習慣も関与しているのではないかな。年末の大田区小学校駅伝への取り組みとも関連させて取り組み、定位置が少しでも上があれば、子どもたちのモチベーションにも繋がる
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいた「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		3: 80%以上		B 1	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		2: 70%以上		C 0	
		体育の授業や外遊びを通して、ソーシャルディスタンスを確保した体力向上を図る運動の取り組みを継続的に推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		1: 70%未満		D 0	
プラン 5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	教員は子どもたちに目標をもたせ、その「めざす自分」に向かって努力できるようにしている」と回答した保護者の割合	4: 80%以上	今年度は、OJT主任が計画的に研修計画を立て、若手教諭だけでなく皆が参加できる研修を充実させ、それぞれの指導力の向上を図ることができた。次年度は、キャリア教育に力を入れ、「めざす自分」を意識した指導を心掛けていく。	A 4	学校全体で児童一人ひとりのことを把握していると同時に、児童のキャリアアップを目指して、日々努力して取り組んでいるのを感じる。今後も今迄以上のご指導をお願いしたい。何より先生方の努力のおかげで、日々の授業中の子どもたちは落ち着いていると思う。一人一人に合った教育をこれからもお願いしたい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		3: 70%以上		B 3	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3		2: 60%以上		C 0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		1: 60%未満		D 0	
		自身の課題を明確にして公開授業や自己申告改善授業に取り組み授業改善を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					
プラン 6 なつて学と校も・家庭・地域が担う役割などを明確に、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作りまします。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確に、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作りまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	「家庭では子どもにあいさつや返事をしっかりとっている」と回答した保護者の割合	4: 90%以上	タブレットを活用し、動画を配信したり、書初め展の写真を公開したり、保護者に向けて情報を配信することができた。今後とも学校での様子を積極的に保護者に発信し、家庭との連携を図り指導に活かしていく。	A 7	学校の先生方が、子どもたちのことを一緒に考えるスタンスであった。またホームページ(以下、HP)の毎月の写真が楽しみで拝見している。タブレット活用においては、一人一台タブレットがあることで家庭との連携が深まっていると感じる。地域との関わりは、今のコロナ禍では難しいが、コロナ終息後を見据えて地域で協力できることを模索していきたい。HPやタブレットを活用して、学校一各家庭への情報発信はできている。しかし地域との連携はまだ課題がある。どんな時代になっても、人としての基本や心得(あいさつ、ふれあい)を大切に世の中になしてほしい。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4		3: 80%以上		B 0	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		2: 70%以上		C 0	
		児童の「わかる」「できる」につながる家庭学習を定期的に出し、習慣化を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		1: 70%未満		D 0	
		自ら挨拶しようとする児童の意識を高める取組をして、自分から進んで挨拶する児童を増やす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。